

平成 30 年度 九州工業大学 2 次試験前期日程 (数学問題)

工学部・情報工学部 平成 30 年 2 月 25 日

● 数 I・II・III・A・B (120 分)

1 a を正の実数とする．円 $C : x^2 + y^2 = 1$ と曲線 $D : y = ax^2 - 1$ について，次に答えよ．

- (1) a の値によらず，円 C と曲線 D の両方がつねに通る点の座標を求めよ．
- (2) 円 C と曲線 D が (1) で求めた点以外で交点をもつとき， a の範囲を求めよ．
- (3) a が (2) で求めた範囲にあるとき，(1) で求めた点以外の円 C と曲線 D の交点の座標を a を用いて表せ．
- (4) (3) で求めた交点を通り， x 軸と平行な直線を ℓ とする．直線 ℓ と曲線 D で囲まれた部分を y 軸のまわりに 1 回転してできる立体の体積 V を a を用いて表せ．
- (5) (4) で求めた立体の体積 V の最大値を求めよ．また，そのときの a の値を求めよ．

2 L を正の定数とする．3 以上の整数 n に対して，辺の長さの和が L である正 n 角形を P_n とし， P_n の面積を $S(n)$ とする．次に答えよ．

- (1) P_n の外接円の中心から各辺に下ろした垂線の長さを h とする． h を L と n を用いて表せ．
- (2) $S(n)$ を L と n を用いて表せ．
- (3) $0 < x < \frac{\pi}{2}$ において，関数 $f(x) = \frac{\tan x}{x}$ が単調増加であることを示せ．
- (4) $S(n)$ と $S(n+1)$ の大小を比較せよ．
- (5) $\lim_{n \rightarrow \infty} S(n)$ を L を用いて表せ．

- 3 平面 α 上の $\triangle OAB$ に対して, $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$, $|\vec{a}| = 1$, $|\vec{b}| = t$, $\angle AOB = \theta$ とする. ただし, $0 < \theta < \pi$ とする. また, $\triangle OAB$ の面積を S とする. 次に答えよ.

- (1) $|\overrightarrow{OA}|^2 + |\overrightarrow{OB}|^2 + |\overrightarrow{AB}|^2 - 4\sqrt{3}S$ を t , $\cos \theta$, $\sin \theta$ を用いて表せ.
 (2) t を固定したとき, (1) で求めた式を $f(\theta)$ とする. $f(\theta)$ の最小値を t を用いて表せ. また, その最小値をとるときの θ の値を求めよ.

設問 (3), (4) では, 点 P が平面 α 上を動くものとし, $\overrightarrow{OP} = \vec{x}$ とする.

- (3) t および θ を固定したとき, $|\overrightarrow{OP}|^2 + |\overrightarrow{AP}|^2 + |\overrightarrow{BP}|^2$ の最小値を t , $\cos \theta$ を用いて表せ. また, その最小値をとるときの \vec{x} を \vec{a} , \vec{b} を用いて表せ.
 (4) t , θ および \vec{x} によらず, $|\overrightarrow{OP}|^2 + |\overrightarrow{AP}|^2 + |\overrightarrow{BP}|^2 \geq \frac{4\sqrt{3}}{3}S$ が成り立つことを示せ. また, この不等式において等号が成立するのはどのような場合か答えよ.

- 4 人口知能ベンチャータウンにある A 社と B 社は「はい」か「いいえ」で答えられる質問に回答する知能ロボットを開発した．質問に対して，A 社製のロボットは， $\frac{4}{5}$ の確率で正しい答えを返し， $\frac{1}{5}$ の確率で間違った答えを返す．B 社製のロボットは， $\frac{1}{10}$ の確率で正しい答えを返し， $\frac{9}{10}$ の確率で間違った答えを返す．A 社製のロボットが 3 体，B 社製のロボットが 3 体，計 6 体のロボットがある．これらのロボットは外見では区別することができない．

ベンチャータウンの入口に，二股の分かれ道があり，一方の道は A 社へ，もう一方の道は B 社へ続いている．この入口に，6 体の中から無作為に選ばれた 1 体のロボットが案内役として立っている．次に答えよ．

- (1) 案内役ロボットに「あなたは A 社製のロボットですか？」と質問して，答えが「はい」である確率を求めよ．
- (2) 案内役ロボットに「あなたは A 社製のロボットですか？」と質問して，答えが「はい」であったとき，このロボットが A 社製のロボットである確率を求めよ．
- (3) 案内役ロボットに，一方の道を指しながら「この道はあなたを作った会社へ続く道ですか？」と質問して，答えが「はい」であったとき，指した道が A 社へ続く道である確率を求めよ．
- (4) 案内役ロボットが，(2)，(3) のどちらの質問に対しても「はい」と答えたとき，指した道が A 社へ続く道である確率を求めよ．
- (5) 残りの 5 体のロボットの中から無作為に選ばれた 1 体のロボットが入口にやってきた．これら 2 体のロボットに「あなたたちは同じ会社製のロボットですか？」と質問したところ，案内役ロボットは「はい」と答え，あとから来たロボットは「いいえ」と答えた．このとき，2 体とも A 社製のロボットである確率を求めよ．

正解

- 1 (1) $D: y = ax^2 - 1$ が a の値によらず通る点は $(0, -1)$

$C: x^2 + y^2 = 1$ もこの点を通るから、求める点は $(0, -1)$

- (2) C と D の方程式から x を消去すると

$$y = a(1 - y^2) - 1 \quad \text{整理すると} \quad a(y^2 - 1) + y + 1 = 0$$

ゆえに $(y + 1)(ay - a + 1)$ これを解いて $y = -1, \frac{a-1}{a} \dots \textcircled{1}$

共有点の y 座標に注意して $-1 < \frac{a-1}{a} \leq 1$ よって $a > \frac{1}{2}$

- (3) 点 $(0, -1)$ 以外の C と D の共有点の y 座標は、 $\textcircled{1}$ より $y = \frac{a-1}{a}$

これを D の方程式に代入して

$$\frac{a-1}{a} = ax^2 - 1 \quad \text{ゆえに} \quad x = \pm \frac{\sqrt{2a-1}}{a}$$

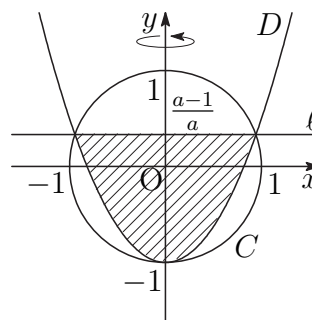
よって、求める交点の座標は $\left(\pm \frac{\sqrt{2a-1}}{a}, \frac{a-1}{a} \right)$

- (4) D と ℓ で囲まれた部分は右の図の斜線部分で、 y 軸に関して対称である。 D の方程式から

$$x^2 = \frac{y+1}{a}$$

よって、求める回転体の体積 V は

$$\begin{aligned} V &= \pi \int_0^{\frac{a-1}{a}} x^2 dy = \frac{\pi}{a} \int_0^{\frac{a-1}{a}} (y+1) dy \\ &= \frac{\pi}{2a} \left[(y+1)^2 \right]_{-1}^{\frac{a-1}{a}} = \frac{\pi}{2a^3} (2a-1)^2 \end{aligned}$$



(5) (4) の結果から , $f(a) = \frac{\pi}{2}a^{-3}(2a-1)^2$ とおくと ($a > \frac{1}{2}$)

$$\begin{aligned} f'(a) &= \frac{\pi}{2}\{-3a^{-4}(2a-1)^2 + a^{-3} \cdot 4(2a-1)\} \\ &= \frac{\pi}{2}a^{-4}(2a-1)\{-3(2a-1) + 4a\} = -\frac{\pi}{2}a^{-4}(2a-1)(2a-3) \end{aligned}$$

したがって , $f(a)$ の増減表は次のようになる .

a	$(\frac{1}{2})$	\dots	$\frac{3}{2}$	\dots
$f'(a)$		$+$	0	$-$
$f(a)$		\nearrow	極大	\searrow

よって , V は $a = \frac{3}{2}$ のとき , 最大値 $f\left(\frac{3}{2}\right) = \frac{16}{27}\pi$

解説 (1) で示したように , a の値によらず , 点 $(0, -1)$ は C と D の共有点である .

$$C : x^2 + y^2 = 1 \text{ より } (*) \begin{cases} 2x + 2yy' = 0, \\ 2 + 2(y')^2 + 2yy'' = 0 \end{cases}$$

$$D : y = ax^2 - 1 \text{ より } (**) \begin{cases} y' = 2ax, \\ y'' = 2a \end{cases}$$

これらに共有点 $(0, -1)$ の座標を代入することにより

$$(*) \text{ から } y' = 0, y'' = 1, \quad (**) \text{ から } y' = 0, y'' = 2a$$

したがって , 共有点 $(0, -1)$ において , C と D の第 1 次導関数の値が等しいから , C と D は , $(0, -1)$ において 1 次の接触をなす (共通接線をもつ) .

とくに , $a = \frac{1}{2}$ のとき , C と D の第 1 次・第 2 次導関数の値がともに等しいから , C と D は , $(0, -1)$ において 2 次の接触をなす . このとき , C と D の点 $(0, -1)$ における接触円 (曲率円) が一致する¹ .

なお , y が x の関数であるとき , その曲率 κ は次式で与えられる² . また , 曲率半径 R は曲率の逆数である

$$\kappa = \frac{y''}{(1 + y'^2)^{\frac{3}{2}}}, \quad R = \frac{1}{\kappa}$$

$y = ax^2 - 1$ の点 $(0, -1)$ における曲率および曲率半径は $\kappa = 2a, R = \frac{1}{2a}$

とくに , $a = \frac{1}{2}$ のとき , $R = 1$ となり , C の半径と一致する .

¹<http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/kumadai.i.2017.pdf> (p.10 を参照)

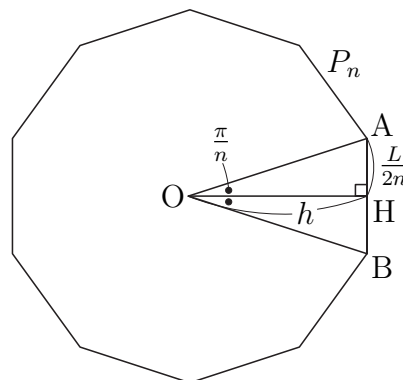
²<http://kumamoto.s12.xrea.com/nyusi/Qdai.ri.2009.pdf> (p.8 を参照)

- 2 (1) 正 n 角形 P_n の 1 つの辺 AB に P_n の外心 O から垂線 OH を引くと

$$\angle AOH = \frac{\pi}{n}, \quad OH = h, \quad AH = \frac{L}{2n}$$

$$\text{したがって} \quad h \tan \frac{\pi}{n} = \frac{L}{2n}$$

$$\text{よって} \quad h = \frac{L}{2n \tan \frac{\pi}{n}}$$



- (2) $\triangle OAB$ の面積について, (1) の結果を利用すると

$$\frac{S(n)}{n} = \frac{1}{2} AB \cdot h = \frac{1}{2} \cdot \frac{L}{n} \cdot \frac{L}{2n \tan \frac{\pi}{n}} \quad \text{よって} \quad S(n) = \frac{L^2}{4n \tan \frac{\pi}{n}}$$

- (3) $f(x) = \frac{\tan x}{x}$ を微分すると $\left(0 < x < \frac{\pi}{2}\right)$

$$f'(x) = \frac{\frac{1}{\cos^2 x} \cdot x - \tan x}{x^2} = \frac{2x - 2 \sin x \cos x}{2x^2 \cos^2 x} = \frac{2x - \sin 2x}{2x^2 \cos^2 x}$$

$$\text{ここで, } g(x) = 2x - \sin 2x \text{ とおくと } \left(0 \leq x < \frac{\pi}{2}\right)$$

$$g(0) = 0, \quad g'(x) = 2(1 - \cos 2x) > 0$$

$$0 < x < \frac{\pi}{2} \text{ において, } g(x) > 0, \text{ すなわち, } f'(x) > 0$$

$$\text{よって, } 0 < x < \frac{\pi}{2} \text{ において, } f(x) \text{ は単調増加である.}$$

- (4) (2) の結果から $S(n) = \frac{L^2}{4n \tan \frac{\pi}{n}} = \frac{L^2}{4\pi} \cdot \frac{\frac{\pi}{n}}{\tan \frac{\pi}{n}} = \frac{L^2}{4\pi} \cdot \frac{1}{f\left(\frac{\pi}{n}\right)} \quad \cdots (*)$

$$\frac{\pi}{n+1} < \frac{\pi}{n} \text{ であるから, (3) の結果より}$$

$$f\left(\frac{\pi}{n+1}\right) < f\left(\frac{\pi}{n}\right) \quad \text{ゆえに} \quad \frac{1}{f\left(\frac{\pi}{n}\right)} < \frac{1}{f\left(\frac{\pi}{n+1}\right)}$$

$$\text{よって, } (*) \text{ より} \quad S(n) < S(n+1)$$

- (5) $x = \frac{\pi}{n}$ とおくと, (*) より $\lim_{n \rightarrow \infty} S(n) = \lim_{x \rightarrow +0} \frac{L^2}{4\pi} \cdot \frac{1}{f(x)}$

$$\text{ここで} \quad \lim_{x \rightarrow +0} f(x) = \lim_{x \rightarrow +0} \frac{\tan x}{x} = 1 \quad \text{よって} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} S(n) = \frac{L^2}{4\pi}$$

$$\text{補足} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} P_n \text{ は円 (半径 } R) \text{ に収束するから} \quad \lim_{n \rightarrow \infty} S(n) = \pi R^2 = \frac{(2\pi R)^2}{4\pi} = \frac{L^2}{4\pi}$$

□3 (1) $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$, $|\vec{a}| = 1$, $|\vec{b}| = t$, $\angle AOB = \theta$ より

$$\begin{aligned} |\overrightarrow{OA}|^2 + |\overrightarrow{OB}|^2 + |\overrightarrow{AB}|^2 &= |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 + |\vec{b} - \vec{a}|^2 = 2|\vec{a}|^2 + 2|\vec{b}|^2 - 2\vec{a} \cdot \vec{b} \\ &= 2 \cdot 1^2 + 2t^2 - 2 \cdot 1 \cdot t \cos \theta = 2 + 2t^2 - 2t \cos \theta, \\ 4\sqrt{3}S &= 4\sqrt{3} \cdot \frac{1}{2} |\vec{a}| |\vec{b}| \sin \theta = 2\sqrt{3}t \sin \theta \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \text{よって} \quad & |\overrightarrow{OA}|^2 + |\overrightarrow{OB}|^2 + |\overrightarrow{AB}|^2 - 4\sqrt{3}S \\ &= 2 + 2t^2 - 2t \cos \theta - 2\sqrt{3}t \sin \theta \\ &= \mathbf{2t^2 + 2 - 2t(\sqrt{3} \sin \theta + \cos \theta)} \end{aligned}$$

(2) (1) の結果から $f(\theta) = 2t^2 + 2 - 4t \sin \left(\theta + \frac{\pi}{6} \right)$

$0 < \theta < \pi$ より, $\frac{\pi}{6} < \theta + \frac{\pi}{6} < \frac{7}{6}\pi$ であるから, $f(\theta)$ は

$$\theta + \frac{\pi}{6} = \frac{\pi}{2}, \text{ すなわち, } \theta = \frac{\pi}{3} \text{ のとき, 最小値 } 2(t-1)^2$$

$$\begin{aligned} (3) \quad |\overrightarrow{OP}|^2 + |\overrightarrow{AP}|^2 + |\overrightarrow{BP}|^2 &= |\vec{x}|^2 + |\vec{x} - \vec{a}|^2 + |\vec{x} - \vec{b}|^2 \\ &= 3|\vec{x}|^2 - 2(\vec{a} + \vec{b}) \cdot \vec{x} + |\vec{a}|^2 + |\vec{b}|^2 \\ &= 3 \left| \vec{x} - \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b}) \right|^2 + \frac{2}{3}(|\vec{a}|^2 - \vec{a} \cdot \vec{b} + |\vec{b}|^2) \\ &= 3 \left| \vec{x} - \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b}) \right|^2 + \frac{2}{3}(1 - t \cos \theta + t^2) \quad \cdots (*) \end{aligned}$$

よって, $\vec{x} = \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b})$ のとき, 最小値 $\frac{2}{3}(1 - t \cos \theta + t^2)$

(4) $\frac{4\sqrt{3}}{3}S = \frac{4\sqrt{3}}{3} \cdot \frac{1}{2} |\vec{a}| |\vec{b}| \sin \theta = \frac{2\sqrt{3}}{3}t \sin \theta$ であるから, (*) より

$$\begin{aligned} & |\overrightarrow{OP}|^2 + |\overrightarrow{AP}|^2 + |\overrightarrow{BP}|^2 - \frac{4\sqrt{3}}{3}S \\ &= 3 \left| \vec{x} - \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b}) \right|^2 + \frac{2}{3}(1 - t \cos \theta + t^2) - \frac{2\sqrt{3}}{3}t \sin \theta \\ &= 3 \left| \vec{x} - \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b}) \right|^2 + \frac{2}{3}(t^2 - 2t + 1) + \frac{2}{3}t(2 - \sqrt{3} \sin \theta - \cos \theta) \\ &= 3 \left| \vec{x} - \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b}) \right|^2 + \frac{2}{3}(t-1)^2 + \frac{4}{3}t \left\{ 1 - \sin \left(\theta + \frac{\pi}{6} \right) \right\} \geq 0 \end{aligned}$$

よって $|\overrightarrow{OP}|^2 + |\overrightarrow{AP}|^2 + |\overrightarrow{BP}|^2 \geq \frac{4\sqrt{3}}{3}S$

等号が成立する場合は $\vec{x} = \frac{1}{3}(\vec{a} + \vec{b})$, $t = 1$, $\theta = \frac{\pi}{3}$

- 4 質問に対して A 社製ロボットが正しい答え、間違った答えを返す確率をそれぞれ a, \bar{a} とし、同様に B 社製ロボットが正しい答え、間違った答えを返す確率をそれぞれ b, \bar{b} とする ($a = \frac{8}{10}, \bar{a} = \frac{2}{10}, b = \frac{1}{10}, \bar{b} = \frac{9}{10}$) .

- (1) 案内役ロボットが A 社製, B 社製である確率は, ともに $\frac{3}{6} = \frac{1}{2}$
案内役ロボットが「はい」と答える確率は

$$\frac{1}{2}a + \frac{1}{2}\bar{b} = \frac{1}{2} \left(\frac{8}{10} + \frac{9}{10} \right) = \frac{17}{20}$$

- (2) 案内役ロボットが「はい」と答えたとき, ロボットが A 社製である確率は

$$\frac{\frac{1}{2}a}{\frac{1}{2}a + \frac{1}{2}\bar{b}} = \frac{a}{a + \bar{b}} = \frac{\frac{8}{10}}{\frac{8}{10} + \frac{9}{10}} = \frac{8}{17}$$

- (3) 案内役ロボットがどちらか, 指した道がどちらであるかにより, 次の 4 つの場合がある .

- (i) A 社製ロボットに A 社への道を指した
- (ii) B 社製ロボットに A 社への道を指した
- (iii) A 社製ロボットに B 社への道を指した
- (iv) B 社製ロボットに B 社への道を指した

これらの確率は, すべて $\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

したがって, 案内ロボットが「はい」と答える確率は

$$(i) \text{ のとき } \frac{1}{4}a, \quad (ii) \text{ のとき } \frac{1}{4}\bar{b}, \quad (iii) \text{ のとき } \frac{1}{4}\bar{a}, \quad (iv) \text{ のとき } \frac{1}{4}b$$

よって, 指した道が A 社へ続く道である確率は

$$\frac{\frac{1}{4}a + \frac{1}{4}\bar{b}}{\frac{1}{4}a + \frac{1}{4}\bar{b} + \frac{1}{4}\bar{a} + \frac{1}{4}b} = \frac{a + \bar{b}}{(a + \bar{a}) + (b + \bar{b})} = \frac{\frac{8}{10} + \frac{9}{10}}{1 + 1} = \frac{17}{20}$$

- (4) 前問と同様に, (2), (3) どちらの質問に対しても「はい」と答える確率は

$$(i) \text{ のとき } \frac{1}{4}a^2, \quad (ii) \text{ のとき } \frac{1}{4}\bar{b}^2, \quad (iii) \text{ のとき } \frac{1}{4}a\bar{a}, \quad (iv) \text{ のとき } \frac{1}{4}\bar{b}b$$

よって, 指した道が A 社へ続く道である確率は

$$\begin{aligned} \frac{\frac{1}{4}a^2 + \frac{1}{4}\bar{b}^2}{\frac{1}{4}a^2 + \frac{1}{4}\bar{b}^2 + \frac{1}{4}a\bar{a} + \frac{1}{4}\bar{b}b} &= \frac{a^2 + \bar{b}^2}{a(a + \bar{a}) + \bar{b}(b + \bar{b})} = \frac{a^2 + \bar{b}^2}{a + \bar{b}} \\ &= \frac{\left(\frac{8}{10}\right)^2 + \left(\frac{9}{10}\right)^2}{\frac{8}{10} + \frac{9}{10}} = \frac{8^2 + 9^2}{10(8 + 9)} = \frac{29}{34} \end{aligned}$$

- (5) 案内役ロボットとあとから来たロボットの組合せとその確率は、次のようになる。

- ① 案内役が A 社製，後からきたのも A 社製のとき $\frac{3}{6} \times \frac{2}{5} = \frac{1}{5}$
 ② 案内役が A 社製，後からきたのが B 社製のとき $\frac{3}{6} \times \frac{3}{5} = \frac{3}{10}$
 ③ 案内役が B 社製，後からきたのも A 社製のとき $\frac{3}{6} \times \frac{3}{5} = \frac{3}{10}$
 ④ 案内役が B 社製，後からきたのが B 社製のとき $\frac{3}{6} \times \frac{2}{5} = \frac{1}{5}$

案内役ロボットは「はい」，あとから来たロボットが「いいえ」と答える確率は

$$\text{①のとき } \frac{1}{5}a\bar{a}, \quad \text{②のとき } \frac{3}{10}\bar{a}b, \quad \text{③のとき } \frac{3}{10}\bar{b}a, \quad \text{④のとき } \frac{1}{5}b\bar{b}$$

したがって，2 体とも A 社製のロボットである確率は

$$\begin{aligned} \frac{\frac{1}{5}a\bar{a}}{\frac{1}{5}a\bar{a} + \frac{3}{10}\bar{a}b + \frac{3}{10}\bar{b}a + \frac{1}{5}b\bar{b}} &= \frac{2a\bar{a}}{2a\bar{a} + 3\bar{a}b + 3\bar{b}a + 2b\bar{b}} \\ &= \frac{2 \cdot \frac{8}{10} \cdot \frac{2}{10}}{2 \cdot \frac{8}{10} \cdot \frac{2}{10} + 3 \cdot \frac{2}{10} \cdot \frac{1}{10} + 3 \cdot \frac{9}{10} \cdot \frac{8}{10} + 2 \cdot \frac{1}{10} \cdot \frac{9}{10}} \\ &= \frac{2 \cdot 8 \cdot 2}{2 \cdot 8 \cdot 2 + 3 \cdot 2 \cdot 1 + 3 \cdot 9 \cdot 8 + 2 \cdot 1 \cdot 9} \\ &= \frac{32}{272} = \frac{2}{17} \end{aligned}$$